

病虫害発生予察注意報第1号

佐賀県

作物名：麦類
病虫害名：赤かび病



1. 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1) 定期調査における圃場での発生状況

- (1) 大麦における調査（県内22圃場、4月16～18日）では、平均発生茎率は0.2%（平年0.02%、前年0%）と平年より多かった。また、複数圃場で調査区外の穂に発病を認めた。
- (2) 小麦における調査（県内22圃場、4月16～18日）では発生を認めていないが、一部の圃場で調査区外の穂に発病を認めている。

2) 気象要因

- (1) 本年の大麦および小麦の防除適期に雨天が続き、適期防除が困難な気象条件で推移した。
- (2) 九州北部地方の1か月予報（福岡管区气象台4月18日発表）では、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されており、本病の発生に好適な条件が今後も続くと予想される。

3. 防除対策

1) 大麦

- (1) 蒴殻抽出期（出穂期の約2週間後）およびその7～10日後頃に2回目の散布を行うと、発病抑制だけでなくかび毒（DON、NIV）低減効果が高い（表1）。2回目防除が実施されていない場合は、収穫前日数に留意して速やかに薬剤散布する。
- (2) 刈り遅れにより麦類が降雨に当たると、DON、NIV等のかび毒産生を助長する原因となるため、適期に確実に収穫する。

2) 小麦

- (1) 開花始め～開花期（出穂期の約7日～10日後）に1回目、開花10～20日後頃に2回目の散布を行うことでDON低減効果が認められる（表2）。2回目防除が実施されていない場合は、収穫前日数に留意して速やかに薬剤散布する。
- (2) 刈り遅れにより麦類が降雨に当たると、DON、NIV等のかび毒産生を助長する原因となるため、適期に確実に収穫する。

表1 二条大麦における薬剤散布時期が赤かび病の発病とかび毒蓄積濃度に及ぼす影響
(農研機構九州沖縄農業研究センター)

開花日と農薬散布日の差 (生育ステージ)	2005年		2006年	
	発病度 防除価	DON+NIV 低減率	発病度 防除価	DON+NIV 低減率
-3日 (出穂2日後)	34 c	50 bc	6 ab	17 ab
0日 穂揃い・開花期	33 c	47 c	6 ab	41 bc
4日	74 d	68 bc	37 cd	31 abc
9日 (葎殻抽出前)	87 d	76 bc	45 cd	53 cd
11日 葎殻抽出始め	88 d	82 c	50 d	75 d
13日 葎殻抽出盛期	NT	NT	39 cd	80 d
15日 葎殻抽出終期	74 d	69 bc	25 bc	79 d
20日	22 bc	50 bc	13 ab	52 cd
30日	-9 a	42 bc	4 a	55 cd
無散布区 (無散布区実測値)	0 ab (13.7)	0 a (25.0 μ g/g)	0 a (3.5)	0 a (6.1 μ g/g)

罹病トウモロコシ粒の散布等により赤かび病の発病しやすい圃場条件下で試験。

品種「ニシノチカラ」、「チオファネートメチル水和剤」により防除を実施。

「葎殻抽出期」:50%以上の穂で葎殻が見え始めた日、「葎殻抽出盛期」:50%以上の穂で葎殻抽出が完了した日、

「葎殻抽出終期」:90%以上の穂で葎殻抽出が完了した日。

防除価は、開花20日後の対照区(農薬無散布区)に対する各処理区の発病度の低減率。

試験は3反復(2005年)と4反復(2006年)で実施し、その平均を求めた。表中「NT」は試験未実施。

同一カラム内の同一の添え字はFisher's PLSD法(5%水準)で有意差なし。

表2 小麦における各種薬剤による追加防除時期とかび毒蓄積(DON・NIV)との関係
(2010年、農研機構九州沖縄農業研究センター)

供試薬剤	散布時期 (開花後日数)			発病穂率 (%)	発病度	発病度 防除価	DON+NIV (mg/kg)	DON+NIV 低減率
	0	10	20					
テブコナゾール水和剤	○	○		21	1.5	85	0.37	82
	○		○	25	1.9	82	0.28	86
メトコナゾール水和剤	○	○		17	1.1	89	0.40	80
	○		○	14	1.0	90	0.19	90
プロピコナゾール水和剤	○	○		24	2.1	79	0.72	64
	○		○	21	1.5	85	0.64	69
チオファネートメチル水和剤	○	○		22	2.1	80	0.43	79
	○		○	23	1.6	85	0.10	95
無処理				75	10.1	-	2.03	-

供試品種:農林61号。3ブロック乱塊法で試験を実施。赤かび病菌培養トウモロコシ粒の畝間散布とスプリンクラー散水を行った接種条件で、供試薬剤(規定倍液:150L/10a相当量)を1回目は開花期に散布し、2回目を開花10日後もしくは20日後に散布した。かび毒の定量下限値は、DON、NIVとも0.05mg/kgであった。

(「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版(農研機構)」から引用)

連絡先:佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

Mail nouyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>